

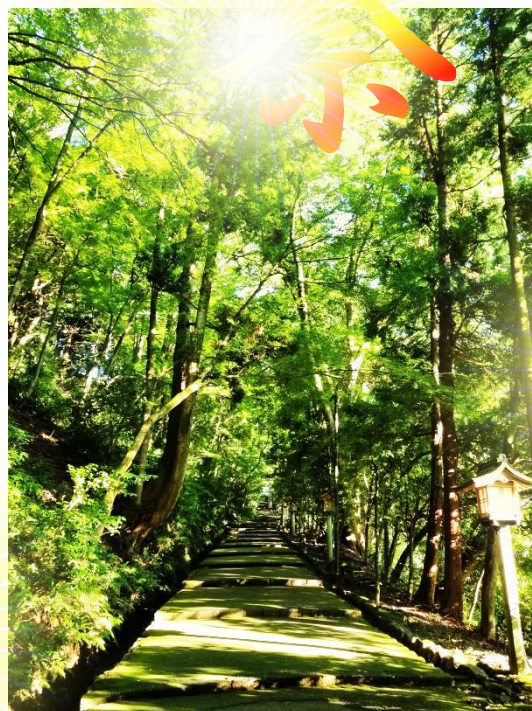


2019年7月、NMCAA「京都三位一体セミナー」の前日に訪れた“白山比咩神社”です

ここから**愛の夢**と**希望の光**が∞に広がっていく、美しいクリスタルの空間——

根源の岩戸が開かれ、歓喜に躍る黄金色の光の玉が、溢れ出し、弾け飛ぶかのようなワクワクの社殿です

白山さんは、命の喜びとパワー漲る“祭神輿”のようでした (*^^*)



表参道は木漏れ日にキラキラと輝く、**根源の光の道**^^

久しぶりの県外脱出、セミナー開始までに、どこか他に行きたい所は…？

最初に浮かんだのは、鎮座 1300 年と言われる天の橋立“籠神社(真名井神社)”

けれど、時間的に無理と感じ断念！次に浮かんできたのは、何故か上賀茂・下鴨神社でした^^

賀茂と鴨？御祭神の名前をみてもピンときませんが、何か意味があるはず…

ネットマップで京都駅からの経路を検索していると、指定した覚えのない「八坂神社」のポイントマークが現れ

お呼びかしら。。。？時間があればGO！ということで、出発です(^^)!

賀茂神社は初めて訪れる場所なので、迷う…、時間はほぼ無い予定(笑)でしたが

どういわけか、一組の御家族連れと一緒に、道案内のように聞こえてくる会話のおかげで

二つの神社を、スムーズに回ることができました！

今回はカラスさん(ハ咫鳥)と御一緒？そんな気配を感じていました^^

最初に向かったのは上賀茂神社

御祭神は“賀茂別雷大神”(かもわけいかづちのおおかみ)です



荒々しい雷神のイメージ？ではなく、私には、純朴な可愛らしさというか

素のままが、大切に守られてそこにあるという感じ… 水の美しさ、清らかさも印象的でした



ほのぼのとした気を感じるのは、賀茂神社の御神紋のせいでしょうか？



双葉葵の紋は、寄り添う二つのハート…のようです(*^^*)

二の鳥居をくぐった先、細殿前にあったのは、しばし立ち止まって見入ってしまう

妙に存在感のある、不思議な小山です

なんだか、地面にニョッキリと生えた角(牛頭天王?)のようでもあります^^



ホームページによると

「“立砂”と呼ばれる、賀茂神社の神体山“神山”を象ったもので

頂に三本と二本の松の葉が立てられ、陰と陽の一对になっている」と説明されています

陰陽思想において、奇数(三本)と偶数(二本)が合わさることで、神の出現を願う意があるとのことです

陰陽道といえば、魔除け、妖術使いといったイメージの、安倍晴明が浮かびますが

「陰陽寮(日本の律令制において中務省に属する機関のひとつ。占い・天文・時・暦の編纂を担当する部署)で

教えられていた天文道、暦道といったものの一つ。これら道の呼称は大学寮における儒学を教える明経道、

律令を教える明法道等と同じで、国家機関の各部署での技術一般を指す用語であり、

思想ないし宗教体系を指す用語ではない。」

「10世紀には、陰陽道・天文道・暦道いずれも究めた、賀茂忠行・賀茂保憲父子が現れ、

その弟子から陰陽道の占術に卓越した才能を示し、宮廷社会から非常に信頼を受けた安倍晴明が出た。」

(ウィキペディアより)

と書かれてあり、賀茂氏に対する驚きの発見でした

立砂というシンプルな構造の中に、深い意味、計り知れないパワーを感じる事…
国宝とされる本殿の隣には、それとまったく同じ造りの権殿(仮殿)が、常設されている事…
ここには、大切な何か秘められている？ そんな気がしてきました(*^^*)



本殿(と権殿)は、奥向こうにあって、外からは見る事ができないようになっています
特別参拝受付は10時以降との事、中には入れませんでした
が、美しく荘厳な光に包まれていました^^

御祭神“賀茂別雷神”について、ホームページによると
<https://www.kamigamojinja.jp/about-shinwa.html>

太古の昔、天上より降ってきた一本の矢を拾った賀茂玉依比売命は、
その不思議な力によって懐妊し、立派な御子が誕生した
その御子が元服を迎えたとき、祖父であり一族の長である賀茂建角身命は祝宴をあげ
御子に向かって「父と思ふものに盃をすすめなさい」というと
「我が父は天津神なり」と言い、天に向かって盃を投げ、雷鳴と共に天に昇ってしまった
後に、御子に会いたいと願い続ける賀茂玉依比売命の夢枕に現れ
その御神託にしたがって神迎いの祭をしたところ、立派な成人の姿となって、天より神山に降臨された
このようにあり、なんとなく「我が父は天津神なり」の言葉が気になり、そこから連想されたのは
邇藝速日命(饒速日命 にぎはやひのみこと)です

別名を、天照国照彦天火明櫛玉饒速日尊(あまてるくにてるひこあまのほのあかりくしたまにぎはやひのみこと)
天火明命(あまのほのあかりのみこと)等とも呼ばれ、謎の存在として、諸説あるようです
これまで、ほとんど意識した事のない存在でしたが、何故に？

私には何の知識もなく、真実がわかるはずもないのですが、感じたままを表現すると
「我が父は天津神なり」の響きは、その“ニギハヤヒ”の言葉で、「我、天津神なり！」と聞こえます
ネットで調べてみると、神武東征以前から大和に鎮座していたそうで

その地位を同じ天孫とされる神武天皇に譲った後、歴史の表舞台から消えてしまったようです

物部氏、穂積氏、尾張氏、海部氏、熊野国造らの祖神と言われます

私の中ではずっと、天津・国津等、神々の区分？が曖昧で、モヤモヤした感じがありました

国津神の代表とされる“スサノオ”は、イザナギから生まれた三貴子の一人であり

本当は“天津神”！！そして中今、天津と国津を繋ぐキーマン？！

すべての存在が

それぞれの役割(時代の経綸、宇宙創造主の大いなる計画)を生き(演じ)

一なる源、根源の究極の愛の太陽＝“**根源天照皇太神**”の元へと帰っていく今

“天津”も“国津”も関係なく、日本大家族なのだと思います^^



天照国照彦天火明櫛玉饒速日尊は、その名前の通り“天照(太陽)神”です

天照が男性性というのは、なんとなく違和感がありますが

ニギハヤヒは、天照大神の孫(天忍穗耳尊の子)であり、邇邇芸命の兄とされるのだから

やはり、天照神から生まれた“太陽神”なのです^^

これからは、愛と調和の“アクエリアス”＝女性性の時代！

女性性が豊かに花開くためには、それに相応しい、愛の太陽そのままの男性性が重要と感ず

ニギハヤヒは、無償の愛の“キリスト”であり＝“天照”ではないでしょうか！(*^^*)

上賀茂神社の本殿には、賀茂別雷大神

＝ニギハヤヒ(天照国照彦天火明櫛玉饒速日尊)が燦然と輝き

もしかすると、お隣の権殿には、その妃とされる“セオリツヒメ”(瀬織津姫)が

仲睦まじく並んでいるのかもしれない^^



セオリツヒメは、天照大神の荒御魂とも言われます

二神が並ぶ日の本は

陰と陽、男性性と女性性が統合され、表裏一体となった、∞の喜びの世界

キリスト(＝天照)の再臨、“弥勒の世”のはじまり——

「次は、何時何分発の○番のバスね！」☺ との事で(笑)

下鴨神社(賀茂御祖神社)へ！

御祭神は、

西殿に、賀茂建角身命(かもたけつぬみのみこと)

東殿に、玉依媛命(たまよりひめのみこと)の、親子二神がお祀りされています

玉依媛命は、上賀茂神社御祭神“賀茂別雷神”の母神であり

祖父である賀茂建角身命は、古代の京都をひらかれた神で、山城の国一宮として

京都の守護神としてまつられているとのこと



上賀茂神社をテン(中心)とする、“マルテン”(神界の形象)のマルのような

スケールの大きさ、貫禄を感じます

『新撰姓氏録』によれば、賀茂建角身命は神魂命(かみむすびのみこと)の孫である。

神武東征の際、高木神・天照大神の命を受けて日向の曾の峰に天降り、

大和の葛木山に至り、八咫鳥に化身して

神武天皇を先導し、金鷄として勝利に貢献した。(ウィキペディア)

思わぬところに、カ～ラスさん発見！^^

これぞ、カモフラージュ?!(笑)

八咫鳥はスサノオの使い、太陽の化身!!

いざ、八坂神社へと!



雷鳴轟く!! かのような、灰色の空を背に見えてきたのは、

何と凛々しい!“素戔嗚尊”すさのおのみこと?!

金(光)と黒(闇)のコントラストの美しさに、見惚れてしまいます^^

7月は祇園祭の季節、境内は活気に溢れています

「祭」とは「間釣り合わす」の意で、神と人との融合!魂のぶつかり合い!

本殿のすぐ前にある舞殿、その中に見えるのは何でしょう?

覗いてみると。。。



ワアオ～、豪華絢爛、金ピカピカの、三基(クシナダ・スサノオ・八柱の御子)の御神輿です
 ん？ どこかで見たような。。。 出発前に白山さんで感じたのは、この光景？！
 弾け飛ぶ黄金色の光の玉は、“親子”＝“神とその分御魂”である、私達の“魂”の輝き？！！
 ほいっ&ほいっ(わっしょい)！！ 本当の自分(魂、神の子)が躍り出す！！

＼(´o´)／＼(´o´)／＼(´o´)／

日本の御神輿にそっくりと言われる“失われたアーク(聖櫃)” いよいよ顕る？！かも^^

白山の麓にある、私の生誕地は、「牛首(うしくび)」と呼ばれていた事を思い出しました
 養老二年に泰澄大師が、牛首村(白峰村)を開いた時、護摩堂を建てて
 “牛頭天王”(素戔鳴命の本地とされる)を祀り、村の鎮護とされたことに由来すると言われます

また、石川県能登地区には、「あばれ祭」と呼ばれる

八坂神社“牛頭天王”を中心とした、勇壮な祭りが毎年開催されていて
 地元では“祭、命！”で、祭が終わった途端に、来年へのカウントダウンが始まるそうです！
 神と人との理屈を越えた絆、生命エネルギー発露の場が、お祭ですね^^



神々は
 本当は、とても身近な
 私達の命そのもの—— (**^*)

“アマテラス”と“スサノオ”
 “太陽”と“月” “源”と“その輝き”
 “愛”と“力”
 力愛不二の“弥勒の世”



♡ドキドキ・ワクワク♡のマル秘？のセミナーを終え、京都駅待合室です

帰りの列車の時刻まで、あと数分となった頃

「近江付近大雨のため、サンダーバード号の運転を、京都にて停止します

今のところ出発の予定はありません」とのアナウンスが。。

ええっ？まさかのハプニング

家族には内緒の外出だったので、今日中に帰らないと、まずいのです^^;

雨がやみ列車が動き出すのを待つしかない！で粘りましたが

本日運行の見込みはないと告げられ、仕方なく駅前にあったホテルに飛び込みました

軍資金も使い果たし、翌朝一番の列車で帰るつもりでしたが

何故帰れなかったのか？と考えたとき、

最初に行きたいと思っていた籠神社(真名井神社)の事が、浮かんできました

行かなければならない、という気持ちがどんどん強くなり

不安が期待へと変わっていくのを感じました

天の橋立は、遙か昔に家族旅行で訪れた事がある、思い出の場所です^^

2014年には一人で、そして今回が3度目の訪問です

籠神社(真名井神社)のホームページ (<https://www.motoise.jp/>) を開くと、

最初に目に飛び込んでくるのは、クルクルまわる赤い“巴紋”です



巴紋にはどんな意味があるのか？ずっと疑問の形象でした

よく見かける紺色の巴紋は、地球の中心にあるとされる理想郷“シャンバラ”の紋章で、

秦氏(シリウス)を表すものと言われるようですが

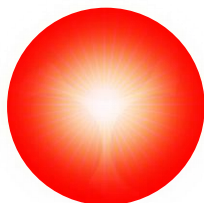
本来は、“赤”で、銀河のセントラル・サン＝オリオンの三ツ星であり

日本神界の三貴子“日＝天照、月＝月読、地＝素戔嗚”の象徴でもあるとの事

オリオンは、日本神界の故郷^^

その統合されたものが、“日の丸”である事がわかり、すごくシックリきました！

三位一体となりクルクルまわる巴紋は、赤い丸に見え“太陽神国日本”が浮かび上がってきます！



さらに、シャンバラの中心は、

NMC(新宇宙)の核心“**根源天照神界**”と繋がっていて

その周りには、36(ミロク)次元以上の、アセンションした神界の集まり

“**宇宙弥勒神界**”(新アインソフ)が存在すると言われます

—上にあるがごとく下にも、内にあるがごとく外にも—

弥勒の世

7月に入ってイメージされていたのが

根源の究極の愛の太陽“**根源天照皇太神**”が中心となった

36色(∞の色彩)の光輝を放つ、美しい、NMCの雛形=地上“**白山**”です！

白山は、夢のキャンバス！！(*^^*)

∞の創造の可能性の、真っ白な根源の光(フォトン)の山

地球の中心にある、愛と光の“シャンバラ”艦隊=5次元「**地球アセンション号**」は、
8次元~∞のパワーを持つ「**根源太陽母船=天の鳥船“ヤマト”**」へとシフト(アセンション)し

宇宙中の愛と夢を乗せて、根源の光の源へと旅立つ時！！

その重要な鍵が、籠神社(真名井神社)にあるのでは？そんな気がしてきます^^

籠神社主祭神は、“彦火明命”(ひこほあかりのみこと)

「別名を天照国照彦火明命ともいい天孫邇邇藝命の兄弟神。天祖から息津鏡・邊津鏡を賜り、
海の奥宮である冠島に降臨され、丹後・丹波地方に養蚕や稲作を広め開拓された神様」とあります
あれっ？今気付いたのですが、ということは、賀茂神社御祭神と同じ、ニギハヤヒでもある???

来るべくして来ていた、のであります(天然ボケ地上セルフ、笑)

籠宮(籠神社)名称の由来は、主祭神“彦火明命”が、竹で編んだ籠船に乗って

海神の宮“龍宮”(=シャンバラ)に行った故事によるものとのこと

伊勢内宮“天照大神”と、外宮“豊受大神”と一緒に祀られていた、元伊勢籠神社は
日本神界の中心である伊勢(神宮)の、故郷ともいえるのだと思います
過去と未来が、今ここ！につながる、“中今”の∞パワーを感じます！！！！

お天気は良好！夏休みを迎えた海水浴客で賑わっています
今世界中で起きている悲惨な出来事や、大きな自然災害の事が頭に浮かんだり
些細ながらも、終わりの見えない日常のアレやコレやを考えると、つい心が沈みがちになりますが
天の橋立の小路は、籠神社へと至る参道。今この一瞬一瞬が大切！

常に、心に太陽を！！！！ 感謝の気持ちで歩きました^^

その時間こえてきたのは、**宇宙戦艦ヤマト**のテーマです！

私達は、決して一人ではない！

意識の扉を大きく開けば、宇宙中の愛と光の仲間達と一緒になのです！！

ふと左手、海面に目をやると、不思議な波が立ち、
まるで海底がめくれ上がるかのように、巨大な何かが、こちらへと向かってくる気配がします
得体の知れない大きなパワーに、瞬間逃げよう^^;と思いましたが、
そうじゃない気がして、恐る恐る近づきました
その時の写真がコチラで、神聖さ、気高さを感じる松の趣と、その姿を映す美しい水の波動——
繊細で、澄み輝く宝石のような海に、すっ~と引き込まれてしまいそうです



“海神わたつみのかみ”のお使い？かもしれません(*^^*)

参道を渡り終えると、すべての音が消え、時間が止まったかのような感覚を覚えました

石の鳥居、木の鳥居を越えると、威風堂々とした籠神社本殿が見えてきました

撮影禁止なので、写真を掲載できないのが残念ですが

精妙・神秘的なプラチナの光が見え、自己の中心と共鳴する、心地良い波動を感じます

故郷へと帰ってきたような、安心感に包まれます

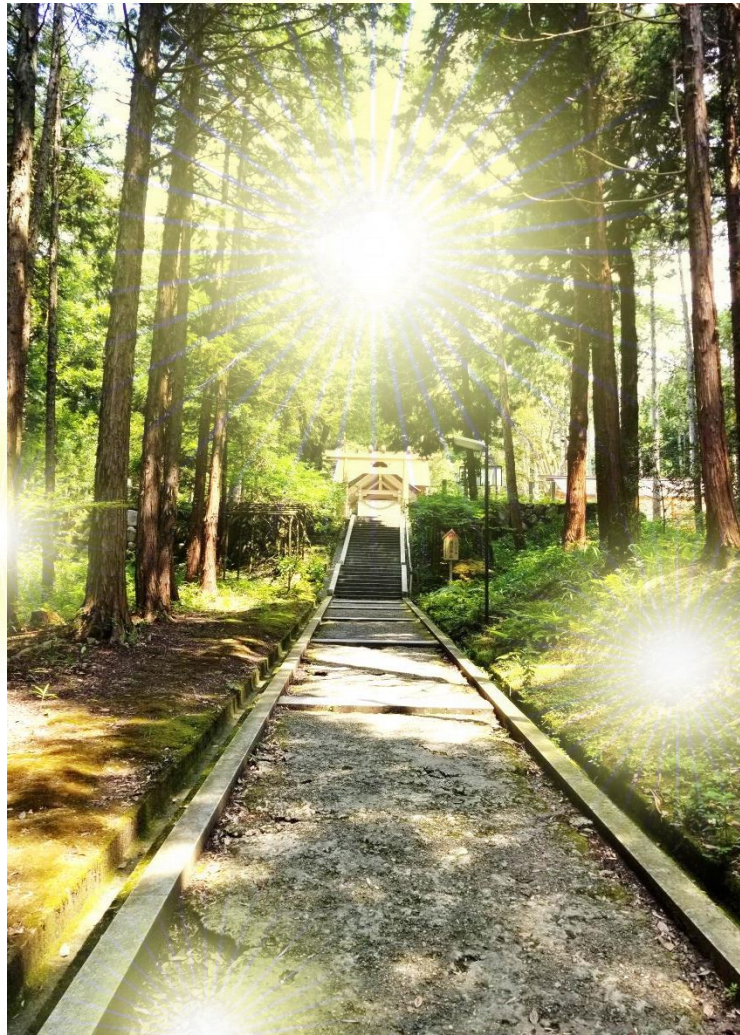


何もかもまるごと、そのまま、ただそこにあればいい。。。

完全なる自己受容、イコール、無我、あらゆるすべてとの一体化、究極の安らぎ——

心静かに感謝の参拝を終え、奥宮である“真名井神社”へと向かいました





光の彼方に浮かぶ社殿、この道は、天へとつづく“天の橋”——

本殿の裏手にある“磐座”は、降り注ぐ根源の光の斎庭？！



誰もいない磐座の前で、ミロクの世の到来について思いを巡らせていると
時を告げる、優しいメロディーが流れてきて、時刻を確認すると、午前11時です
その時浮かんできたのが、11時11分というキーワード！

最近何故か「1111」は、宇宙と繋がる数霊」とのメッセージが目にとまり、気になっていました
また、傍にあった磐座に関する説明書きには、「磐座の先端が船の舳先のように見える…」とあります

ここが、シャンバラ艦隊・地球アセンション号発進の地。。。？！

11時11分、自己の核心にすべてを集め、

地球アセンション号“ヤマト”発進！！を、強くイメージしました！

<主座>

“豊受大神”

産業、衣食住の神様。月神の一面をお持ちであり、天御中主神と同神であると伝えられる。

相殿 罔象女命、彦火火出見尊、神代五代神

<西座>

“天照大神”

“伊射奈岐大神” “伊射奈美大神”

世界の聖山の雛形“白山”を中心とする日本の山々は、
それぞれが神代の、異なる様々な宇宙文明につながっているとされる、壮大な時空！

神人の中心に輝く太陽＝**“大和魂”**との共鳴によって目覚める

今この時の為準備されていた**“神工のピラミッド”！！**

根源の光の八十鈴(レイライン)が成り鳴り響き

日の本の**“黄金龍体”**は**“天の鳥船”**となって舞い上がる！！！！

ヤマト(大和)は、全てを根源の光の源へと帰す、奇蹟の天の鳥(磐)船——



“富士と白山一つなる”

宇宙の創始、その中心に神の齋庭として創られた、この美しい地球を

真に、愛と光のパラダイス(ミロクの世)へと回帰させるのは

肉体をもって地上に立つ、“人”=“日戸”です

地球を護り、進化(アセンション)させる事が出来るのは、神でも、天使やマスターでもなく

日(=根源太陽)の、戸(=扉)である、私達“人類”なのです

人(日戸)が“**ハート**”を開き、その奥にある“**魂**”(=根源太陽母神の分御魂)の輝きを全開にした時

∞の光のシナジーが巻き起こり、奇蹟=“真実”が現れます

大自然も、すべてはエネルギー(光)であり、あの巨大な山さへも動く！！のです！

私達の中に眠っていた、神秘の力=意識の無限の創造力によって！

NMCのひな形“白山”ポータルとして、根源の光の発現をイメージすると

美しいミロクの光を世界へと拡大していく、波紋の中心点のような“富士山”が浮かんできます

富士と白山、表と裏が今一つとなり、それが合図であるかのように、全ての山々(神工のピラミッド)が起動し

日の本の黄金龍体は、美しい鳳凰の姿(天の鳥船)となって

宇宙の中心軸(セントラル・サン)をワープしながら、根源の光の源へと帰っていく光景が見えています(*^^*)

願いが叶うかどうかは、私にはわかりません… 唯、祈らずにはられない——
だから、生きて、歩いて、考えて、自分に出来る事を一生懸命やる、それしかないのです

籠神社へと再び引き返し、正式参拝をさせていただきました
猛暑の中を歩きつづけ辿り着いたオアシス、なんて心地がいいのでしょうか(*^^*)
端正で清々しい気に満ちた、まだお若い神主さんは、何となく自身の子供のような親しみを覚え
ここは太陽の部屋？と感じる、一面が穏やで優しい、赤い光に包まれていました

最後の玉串拝礼の時、世にも恐ろしいことが起こりました…
拝礼をして頭をあげると、すぐ目の前に御鏡があり、自身の姿が映っていたのです(当たり前ですが)

神前に置かれている“御神鏡”は、太陽(神)を象徴するものであると同時に

神とは、祈りを捧げる自分自身(自神)であることを示す為
「かがみ」から、「が・我」をとったものが「かみ・神」である、等
もってもらしく、ただ頭で、理解したつもりになっていただけなのでした。。

けれど、きっと**真実**であり、今がその時——？！

体験で得た気付きは、とても貴重な、大きな一歩！！真に踏み出した感じがします！！

鏡は二枚重なっている感じ？彦火明命が天祖から授かったという、息津鏡・邊津鏡が浮かびます^^

天照大神も、素戔嗚も、邇藝速日も、豊受大神も
その前に立ったなら、すべてが自分！と覚悟を決めるのが、日の本の神人なのかもしれません
「心願成就 ○○○○(名前)」と書かれた御神符を胸に、帰途につきました

対岸まで、時間の都合上、観光船に乗ることにしました^^
乗船し、外に目をやると、隣の船着場の屋根に白い体に黒い羽根の鳥(カモメ、籠目?)が
皆同じアッチ方向を向いて、一列に並んでいるのが見えます(ほのぼの^^)
観光船のお客様(私達)には、まったく関心がない模様です(笑)



出発直前、**出航の合図？**のように、突然大きく雷鳴が響き渡り、雨が降ってきました？！

大粒？小粒？の涙？ 沢山の目に見えない存在の祝福を感じます

私の心に広がっていく喜びの雨粒(涙)が、溢れ出し、この海と一つになっていくようでした

ヤマトが、動きはじめた——

レムリアの新生、シャンバラ艦隊(地球アセンション号)発進！！



お見事！

観光客が投げる餌を上手にキャッチする、空中ショーのはじまりです？！

鳥たちの愛らしさ…



すべての尊い命の未来が、私達“人”の手にかかっている——
大きな大きな責任で、私達にそんな事が可能だろうか？と思ってしまうですが

神は、神の姿に似せて人を創った——

人は“靈止”であり“日戸”である

この言葉の意味が、ようやく理解できるようになった“神人の世”が、はじまっているのだと思います
一なる根源、万物を産み創造した母なる源を“神”(宇宙)と呼ぶならば
私達はその子供であり、その進化の道程とは、親である神に近づいていくこと = 神人となっていくこと！

この時を、気の遠くなるような悠久の年月、神々は待ち続け
この時のために、私達は転生を繰り返し、準備を重ねてきたのではないのでしょうか

そして日本人には、特別な使命と、無限の可能性があるとされます！

「どの時空を観ても、最終的に、地球はワンネスにならなかった…

そこで宇宙高次の検討の結果、宇宙連合が未来から過去の地球に干渉し、

未来のワンネスの DNA、すべてのハイブリッドとして、“日本人”を創生した」と——

スピリチュアルハイラーキーは、様々な光線の役割(天界)であり、その全てが統合された白い光をもつ

GWBH(グレート・ホワイト・ブラザー・フッド)は、光線の源である太陽(神界)へとつながっている

新・GWBH

神界(マルテン)と天界(マルジュウ)を、地上セルフに統合した

“日の本の神人”(根源の光に輝くマルテンジュウ)は

全宇宙の希望！！

スサノオの命、ニギハヤヒの命、ヒコホアカリの命…(新 G ?!)

今回の京都における神社巡りは、“命(みこと)”に導かれていたような気がします

「あらゆるものに命^{いのち}は宿っており、使命^{しめい}を持っている」

“命” = “魂”でもあり、私達一人ひとりの核心(核神)、永遠の、真の自己

一なる根源の神の“分御魂”

“命(みこと)”は、神々の願い = 一人一人の使命を、私達に伝えてくれる、親愛なるメッセンジャー？

スサノオを思い、その命を共にし、ニギハヤヒを思い、その命に耳を傾けることができれば

神道の奥義とされる、「単なる時間的な現在ではなく、神代を継承している今」

= “中今” がみえてくる！

ミロクの世は、神々と共に創り上げていく愛・光、歓喜の世界！

私達の核心にはいつも、新しい宇宙(NMC)の核神

根源の究極の愛の太陽 = **“根源天照皇太神”**が輝いている!!

—道は愛(根源)にはじまり、愛(根源)に終わる—

“究極の白”の中の“究極の赤”

“白山神界菊理姫”は、ウグリ(統合)の神

あらゆる全てを“究極の愛”で繋ぎ、全てと共に根源に帰する
根源太陽ポータル！！



ここに集い、共に成そう

悠久の願い、壮大なる愛の夢！ (**^*)

命

根源アセンションプロジェクト HAKU (hamu) SAN

<http://ascension-hokuriku.net/>

2019. 9. 9 根源の究極の愛の皇 皇美(善美 rumines)